



応用的なコール処理の概要

- [応用的なコール処理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [応用的なコール処理の設定 \(1 ページ\)](#)

応用的なコール処理の概要

このパートの各章では、システムの拡張コール処理を設定するためのさまざまな方法について説明します。このパートで説明した機能を使用して、不在転送のような基本的なコール処理機能よりもより精密なレベルで、コールフロー内の任意の時点でのコールの処理方法を設定できます。このパートのタスク フローでは、各コール処理機能を一覧して、その設定目的を説明し、さらに詳細に説明している適切な章へのリンクを示します。

応用的なコール処理の設定

次のタスク フローを実行すると、システムの応用的なコール処理を設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	APIC-EM コントローラの設定タスクフロー	SIP コールのネットワークサービス品質 (QoS) を管理するには、Cisco Application Policy Infrastructure Controller エンタープライズ モジュール (APIC-EM) を導入します。APIC-EM は、Cisco Unified Communications Manager で管理された SIP エンドポイントおよびトランク間の通信セッションで作成されたメディア フローに DSCP マーキングを適用します。DSCP マーキングをメディアフローに適用すると、音声およびビデオメディアが、

	コマンドまたはアクション	目的
		電子メール、印刷ジョブ、ソフトウェアのダウンロードなどの優先順位の低い他のネットワークトラフィックによってブロックされなくなります。
ステップ 2	コール制御検出の設定タスクフロー	Service Advertisement Framework (SAF) ネットワークを使用する他のコール制御エンティティに Cisco Unified Communications Manager をアドバタイズするには、コール制御検出を設定します。これらのコール制御エンティティは、アドバタイズされた情報を使用して、コールのルーティング操作を動的に設定できます。
ステップ 3	外部コール制御の設定タスクフロー	付加ルートサーバーでシステムのコールルーティングを決定できるようにするには、外部コール制御を設定します。Unified Communications Manager は、付加ルートサーバーにルート要求を発行し、コールのルーティング方法と、適用する追加のコール処理について指示します。
ステップ 4	コールキューイングタスクフロー	ハントメンバーが応答可能になるまで発信者をキューに入れておくには、コールキューイングを設定します。
ステップ 5	コールスロットリングの設定	システムの状態により、オフフックになってからダイヤルトーンを受信するまでの間隔に遅延が生じる可能性があるとき、新しいコール試行を自動的に制限または拒否するには、コールスロットリングを設定します。コールスロットリングのパラメータは、シスコカスタマーサポートに指示された場合を除き、変更しないことを推奨します。
ステップ 6	発信側の正規化の設定タスクフロー	着信電話番号のフォーマットを変更して、グローバル化またはローカライズされた電話番号として受信者の電話機に表示するには、発信側の正規化を設定します。この機能を使用すれば、コールが複数の場所にルーティングさ

	コマンドまたはアクション	目的
		れる際のコールバック機能を改善できます。また、電話機のコールログディレクトリのディレクトリ番号を変更することなく電話機がコールバックできるよう、グローバル発信者番号をローカライズされた番号にマッピングできます。
ステップ 7	論理パーティションの設定タスクフロー	トールバイパスが禁止されている市場で規制要件を満たすには、論理パーティショニングを設定します。たとえば、会議の参加やリダイレクトなどの通話中機能を使用して、ユーザーが制限されたコールを開始できないようにするポリシーを設定できます。
ステップ 8	地理位置情報とロケーションの伝達タスクフロー	すべてのデバイスの地理位置を特定し、クラスタ全体に地理位置情報を伝達します。地理位置情報がデバイスに民間アドレスを割り当てることで、特定の国の法的要件に基づいてデバイス間の通信を制御できます。
ステップ 9	ロケーション認識の設定タスクフロー	ロケーション認識によって、管理者は企業ネットワークに接続している電話の接続元となる物理的な場所を決定できます。
ステップ 10	AAR の設定タスクフロー	場所の帯域幅不足のためシステムがコールをブロックする場合、PSTN またはその他のネットワークを通じてコールを自動的に再ルーティングするようシステムを設定します。自動代替ルーティングにより、発信者が通話を終了して着信側にリダイヤルする必要はなくなります。
ステップ 11	Multilevel Precedence and Preemption Precedence のタスクフロー	検証済みのユーザーにプライオリティコールの発信を許可するには、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) を設定します。これらのユーザーは、必要に応じて優先順位の低いコールをプリエンプション処理できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	2つのスタック (IPv4 と IPv6) の設定 タスク フロー	エンドポイントで IPv4 と IPv6 の両方のアドレス指定をサポートできるようにするには、このタスクを実行してエンドポイントで2つのスタックのサポートを設定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。